

緩和ケア研修会が変わる！

「病いの語り」の効果的な活用術

～患者・家族の視点を活かした研修をどうデザインするか～

新指針が求める「体験者の視点」を、形式的なものに終わらせないために。

■ 開催の背景・目的

令和7年11月の指針改正により、研修には「がん体験者や家族の体験談の導入」と「医療者視点に偏らない配慮」が強く求められるようになります。

「何から始めればよいのか」
「体験談を聞くだけで十分なのか」
といった問いに対して、長年「病いの語り」を届けてきたNPO法人の知見からお答えします。

■ 本セッションのポイント

生活者としての物語

診断前の日常や治療後の生活を含めた語りを体験

視点の相違を自覚する

専門職と体験者の視点の違いを認識

具体的な研修デザイン

実践につながる学びの場を検討

■ プログラム（予定）

時間	内容
3分	開会挨拶・趣旨説明
7分	病いの語りと分析：語り活用の理論的背景
20分	語り動画の上映：実際の『語り』を体感
5分	語り活用の具体案：研修への組み込み方
20分	ディスカッション：参加者同士での意見交換